

Planning and CoordinationMACHINE TIME EXECUTIONREPORT (2005-4-2 CYCLE)

Experimental Group	T588	Reporter	新田和範
Scheduled Period and Shift	Nov.9-12 12 shifts	Main, Sub, Para	Para

Experimenters 前田、高井、新田、久世、佐久間、桑原、船木、松原、田島

SUMMARY OF EXECUTION AND RESULTS

KASKA実験において、宇宙線起源のバックグラウンドを除去するための宇宙線カウンターを設置する予定であるが、そのための試作品として2種類のプラスチックシンチレータおよび波長変換ファイバー、MAPMTを用いて光量および時間情報を利用した位置依存性の試験を行った。

またMAPMTのcross talk、ファイバーの本数の増減、反射剤による効果などの試験を行なった。

得られたデータの解析は現在進行中であり、結果は2006年春の物理学会等で報告する予定である。

EXECUTED MACHINE TIME, BEAM CONDITION, DOWN TIME etc.

1週間通じて断続的に加速器トラブル（主にイオン源）に悩まされた。合計3～4シフト分はデータ不足である。特に最終日は朝から加速器が停止したため、予定より早く実験を終了せざるを得なかった。

COMMENTS